

一時

解説

井上裕久

養

吉田和史
井上裕之真

吉田篤史

老

大坪賢明
江崎欽次朗
松本義昭

守家由訓
清水皓祐
中田弘美
斉藤敦

後見
橋本光史
橋本擴三郎

地謡
橋本充基
宮本茂樹
立花香寿子
水田雄晤
武富康之
吉浪壽晃
吉田潔司
浦部幸裕

文山立

狂言

善竹隆平

善竹隆司

後見
上吉川徹

三時頃

休憩十五分

仕舞

通盛

橋本光史

放下僧

浦部幸裕

三輪

井上裕久

地謡
吉田和史
武富康之
橋本擴三郎
吉田篤史

能

寺澤拓海

寺澤幸祐

松

風

福王知登

河村大

森田保美

見留

善竹彌五郎

附祝言

終了五時過ぎ

後見
井上裕之真
吉浪壽晃

地謡
吉田和史
橋本充基
宮本茂樹
立花香寿子
水田雄晤
浦部幸裕
井上裕久
橋本光史

井上定期会

お客様へのお断り

・お客様の都合による払戻しはできません。
・全館自由席です。
・上演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
・場内での私語・飲食・撮影・録音は遠慮ください。
・場内では携帯電話の呼び出し音をお切り下さい。



能「松風」
ツレ 寺澤拓海



能「松風」
シテ 寺澤幸祐



能「養老」
ツレ 井上裕之真



能「養老」
シテ 吉田篤史



大阪メトロ「谷町四丁目」10番出口南へ約300m
大阪メトロ「谷町六丁目」7番出口より350m
市バス「国立病院」南へすぐ

「養老」「松風」の二曲とも能を代表する人気曲です。
今回は井上定期会二〇周年ということで普段は演じない小書
(特殊演出)で華やかさと彩りを添えた選曲となっています。

能「養老」・・・ある初夏に勅使(ワキ)が
美濃国(岐阜県)に靈泉が湧き出るといふ報告の実検に赴き、
養老の滝に着くと老人(前シテ)と若者(前シテ)の
樵の親子が現れます。勅使が尋ねると親子は養老の滝と
名付けられた謂れを語り、滝壺を案内し湧き出る靈泉を褒め
菓の水の徳を讃えます。勅使は感激しこの由を相聞しようと
帰路し掛けると天から光が差しこみ音楽が聞こえ花が降り、
天女が現れ舞を舞います。やがて養老の山神(後シテ)が
出現して養老の泉を讃え神舞を舞い、泰平の世を祝福して
神の国に帰って行きます。

能「松風」・・・ある秋の夕暮れ、旅の僧(ワキ)が西国へ
下る途中に須磨の浦(神戸市須磨区)を訪れて由緒ありげな
松がある事に気付く、土地の人にその謂れを尋ねます。

昔在原行平を愛した松風(シテ)、村雨(ツレ)と言う姉妹の
海士の旧跡であると教えられ、僧は松を吊ります。そこに
若くて美しい海士が月明かりのもと浜辺で汐を汲み、汐汲車を
引いて帰ってきます。僧は帰宅した海士に一夜の宿を乞います
と姉妹は見苦しい住まいを恥ずかしく一度は断りますが僧に
宿を貸します。そして僧は在原行平の詠んだ歌の事や磯辺の松
を吊った事を話しますと姉妹はなぜか涙にくれます。僧は
不審に思いその訳を尋ねますと、姉妹はこの浦に流されていた
在原行平に寵愛を受けた松風村雨の幽霊だと名乗り、懐かしい
思い出や行平が都に帰るに亡くなった事を語ります。

そして行平の形見の烏帽子や狩衣を手につけて恋の思いに浸り、
涙に沈みます。やがてそれを身につけた松風は狂乱となり、
思いにふけて狂おしく舞います。やがて妄執に悩み苦しむ
松風村雨姉妹は僧に供養を頼み、夢の中へと姿を消します。

井上定期会 九月公演 申込書 FAX 06-6328-5147				
枚数・券種	前売券	枚	学生券	枚
氏名				
住所				
電話番号				

〈料金〉全館自由席
前売券 3,800円
当日券 4,500円
学生券 2,000円
〈お申し込み・お問い合わせ〉
井上定期会 大阪事務所
06-6328-5147